北千葉道路

ー全線開通に向けてー

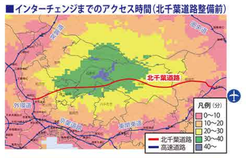
写真提供：成田国際空港株式会社

北千葉道路の位置と状況

一般国道464号北千葉道路は、常磐自動車道と東関東自動車道のほぼ中間に位置し、市川市と成田市を結ぶ全長およそ43kmの高規格道路です。

北千葉道路周辺地域は、高速道路のインターチェンジへのアクセス時間が30分以上かかる空白地域が拡がっています。

■インターチェンジまでのアクセス時間（北千葉道路整備前）



提供：成田国際空港株式会社

北千葉道路の概要と効果

◆概 要

北千葉道路は、東葛飾、北総地域の東西方向の骨格となる道路であり、東京外かく環状道路と成田国際空港を最短で結び、国際競争力の強化を図るとともに、周辺道路の渋滞緩和による物流等の効率化や商工業の振興など地域の活性化に寄与し、災害時における緊急輸送ネットワークの強化に資する千葉県のみならず、我が国にとって大変重要な道路です。

現在、北千葉道路全長約43kmのうち、印西市から成田市間の13.5kmについては、国と県が協同して整備を実施しており、これまでに印西市若萩から成田市押畑間の9.8kmが暫定2車線で開通し、残る成田市押畑から大山間の3.7kmについては、県が整備を進めています。

また、未整備の市川市から鎌ケ谷市間の約9kmを含む市川市から船橋市間の約15kmについては、令和2年度末に千葉県により都市計画の変更及び環境アセスメント手続きが完了し、令和3年度から市川市と松戸市の一般部3.5km及び専用部1.9kmの区間が、国の直轄権限代行により事業着手されました。

◆効 果

（1）成田国際空港等の拠点への広域高速移動の強化
～地域の都市機能の強化～

（2）周辺道路の渋滞の緩和

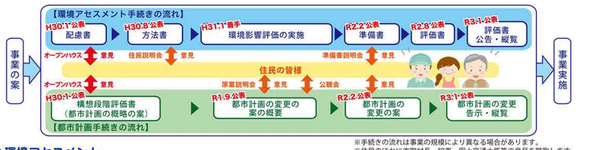
（3）災害時の緊急輸送ネットワークの強化

北千葉道路の概要ホームページ

北千葉道路の広報動画

環境アセスメント・都市計画手続き

一般国道464号北千葉道路の市川市から鎌ケ谷市間の未事業化区間約9kmを含む市川市から船橋市間の約15kmについて、事業化に向けた環境アセスメントと都市計画変更手続きに平成30年1月から着手し、令和3年1月に都市計画変更、同年２月に環境アセスメントの手続きが完了しました。



※手続きの流れは事業の規模により異なる場合があります。
※住民のほかに市町村長、知事、国土交通大臣等の意見を聴取します。

◆環境アセスメント

- 配慮書：環境の保全のため配慮すべき事項について、事業計画策定段階において検討した結果をまとめたものです。
- 方法書：環境影響評価を行う方法をまとめたものです。
- 環境影響評価の実施：環境影響について調査・予測・評価及び環境保全措置の検討を行うものです。
- 準備書：環境影響評価の結果をまとめたものです。
- 評価書：準備書に対する意見を踏まえ、準備書の内容を見直ししたものです。

環境アセスメント手続きとは・・・

環境に大きな影響を及ぼすおそれのある事業を実施する際に、その事業の実施に伴って生ずる環境への影響について、事前に調査・予測・評価するとともに環境保全措置の検討を行い、住民や行政機関などの意見を踏まえた上で、事業実施の際に環境の保全への適正な配慮を行う仕組みです。

◆環境保全措置の例

	評価項目		評価結果	環境保全措置の例
1	大気質	建設機械の稼働	環境保全措置の実施により、すべての予測地点において、基準値以下になると予測されます。	◎排ガス対策型建設機械の採用
2	騒 音	自動車の走行	環境保全措置の実施により、基準値以下もしくは、対象道路以外の道路の騒音レベルから増加することがない値になると予測されます。	◎遮音壁等の設置 ◎排水性舗装の敷設
3	振 動	建設機械の稼働	すべての予測地点において、基準値以下になると予測されます。	◎低振動型建設機械の採用

◆都市計画

- 都市計画の概略の案：住民の意見をいただくため、道路の概ねの位置や規模を示したものです。
- 都市計画案の概要：住民意見を反映し作成した道路の概ねの位置や規模を示したものです。
- 都市計画の案：住民意見を反映し作成した都市計画の最終案です。

都市計画手続きとは・・・

都市計画は、将来のまちづくりを考えて、都市の骨組みを形づくっている道路等の位置、規模、構造などを定めるものです。住民に密接な影響を及ぼす計画ですので、その手続きでは、住民の意見を聴きながら案を作成するとともに、出来上がった案に対して住民の皆さんが意見を提出する機会が設けられています。

広報活動

北千葉道路の検討状況について、沿線住民の方々に広く周知し、ご理解いただくため、平成29年度から、県・沿線市により「北千葉道路広報ワーキンググループ※」を立ち上げ、広報紙の作成・配布やパネルなどを展示し、担当スタッフがパネルの説明や住民の方のご質問にお答えする「オープンハウス」を開催しています。

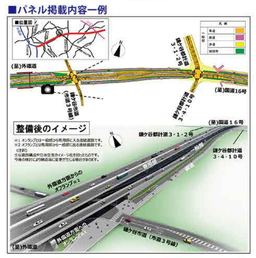
オープンハウスの様子

※北千葉道路広報ワーキンググループ

目 的：北千葉道路（市川市～船橋市）の検討状況等に関する広報活動等を実施

構成員：千葉県、市川市、松戸市、鎌ケ谷市、船橋市、白井市

■パネル掲載内容一例



北千葉道路の経緯と現況

昭和 44 年	・市川市～印旛村間（約32km）が都市計画決定
昭和 55 年	・「成田空港周辺都市計画調査」により成田国際空港への延伸構想が浮上
昭和 60 年	・「首都改造計画」により東京都心～千葉ニュータウン～成田国際空港を結ぶ構想となる
昭和 63 年	・「千葉県広域幹線道路網計画」により印旛村から東の区間は成田国際空港方面へ延伸する構想となる
平成　3 年	・平成3年2月7日　北千葉道路建設促進期成同盟設立（沿線7市及び各市議会議長により組織）
平成　5 年	・区間の一部（松戸市～成田市間47km）が国道に昇格（国道464号）
平成　6 年	・地域高規格道路の候補路線に指定
平成 13 年	・「首都圏北部と成田空港間のアクセスを大幅に短縮する新たな道路アクセスルートとして、東京外かく環状線の東側区間の早期整備と北千葉道路の計画の早期具体化」が都市再生プロジェクト（第2次決定）に位置付け
平成 17 年	・一般国道464号北千葉道路（印旛～成田）の環境影響評価手続きの終了 ・一般国道464号北千葉道路（印旛～成田）が都市計画決定 ・成田新高速鉄道との併設区間である、印旛村若萩～成田市押畑間の新規事業化
平成 19 年	・一般国道464号北千葉道路（印旛～成田）のうち、成田市押畑～成田市大山間の新規事業化
平成 20 年	・都市計画変更（印旛村若萩～成田市押畑間）
平成 22 年	・平成22年7月17日　成田新高速鉄道開業
平成 24 年	・平成24年5月25日　千葉ニュータウン内掘割部6.5kmが開通（白井市谷田～印西牧の原駅付近）
平成 25 年	・平成25年5月31日　成田市北須賀～船形間の1.8kmが開通（暫定２車線）
平成 26 年	・平成26年7月15日　千葉ニュータウン内掘割部の3.5kmが開通（印西牧の原駅付近～印西市鎌苅）
平成 27 年	・国土交通省から平成27年度予算において、市川～鎌ケ谷間の直轄調査の実施が公表
平成 29 年	・平成29年2月19日　印西市若萩～成田市北須賀間の4.2kmが開通（暫定２車線）
平成31年（令和元年）	・平成31年3月3日　成田市船形～押畑間の3.8kmが開通（暫定２車線）
令和　2 年	・令和2年10月16日　一般国道464号北千葉道路建設促進期成同盟会設立（千葉県、沿線7市及び各市商工団体により組織）
令和　3 年	・一般国道464号北千葉道路（市川～船橋）の都市計画変更及び環境影響評価手続きの終了 ・地域高規格道路の計画路線に指定（市川市～成田市） ・地域高規格道路の整備区間の指定（市川市堀之内～松戸市高塚新田）（白井市谷田～印西市若萩） ・一般国道464号北千葉道路（市川・松戸）の専用部1.9km、一般部3.5kmが国により新規事業化
令和　5 年	・令和5年11月29日　北千葉道路用地取得促進プロジェクトチーム設置
令和　6 年	・市川・松戸地区の約3.5kmについて、都市計画事業承認・認可の告示 ・市川・松戸地区の用地買収に着手

鎌ケ谷市初富付近（供用区間）（H29.4）

白井市根付近（供用区間）（H29.4）

白井市谷田付近（供用区間：掘割部入口）（H29.4）

成田市船形～押畑区間開通式（H31.3.3）

成田市押畑付近（H31.3）

印西市若萩付近（H29.4）

北千葉道路沿線市の紹介

資料：面積（全国都道府県市区町村別面積調 R7.1.1）
人口（千葉県毎月常住人口調査月報 R7.4.1）

市川市　面積：57.44km²　人口：500,648 人

江戸川を挟んで東京都と隣接し、南は東京湾に面しています。都心から20km圏内にあり、鉄道や道路など、都市部と県内各地域を結ぶ広域交通網が多くあり、利便性の高い住宅都市です。

一方、都市部にありながら、緑地と水辺が同居する豊かな自然環境にも恵まれ、北部には「動植物園」や多くの梨畑があり、海に面した南部には自然を残した干潟が見られます。

寺社や古くからの街道など、歴史的・文化的な資源も多く有しており、日本を代表する風景画家・東山魁夷など、これまで数多くの文化人が往来し、文化の薫り高い都市として発展しています。

船橋市　面積：85.62km²　人口：649,493 人

中核市最大の約64万人が暮らし、都市と自然が調和する「船橋」は、自然溢れるレジャースポットが盛りだくさん。

デンマークの風景が広がる「ふなばしアンデルセン公園」は、広大な敷地に四季折々の花々やアスレチックなどで子どもから年配の方まで大人気。

また、都心から一番近い潮干狩り場「ふなばし三番瀬海浜公園」では、春から初夏にかけて、爽やかな潮風を感じながら潮干狩りが楽しめます。

魅力あふれる船橋がみなさんをお待ちしています。

松戸市　面積：61.38km²　人口：500,373 人

松戸市は、千葉県北西部に位置し、人口約50万人を抱え、首都圏有数の生活都市として発展してきました。

一方、市内には歴史、文化などがに自然に触れるところが数多くあります。国の重要文化財に指定されている「戸定邸」と名勝に指定されている庭園をはじめ、あじさい寺として親しまれている「本土寺」、江戸川の対岸・葛飾区柴又を結ぶ「矢切の渡し」などの観光名所を持ったまちです。

成田市　面積：213.84km²　人口：134,107 人

成田市には、日本の空の玄関口である成田国際空港と年間1,000万人以上の参詣客を誇る成田山新勝寺があります。新勝寺へつながる表参道や宗吾霊堂など、門前町としての歴史を感じられる町並みに加え、印旛沼や利根川などの豊かな自然を有しており、様々な表情を持った観光都市です。

印西市　面積：123.79km²　人口：109,050 人

北千葉道路沿線部を中心に千葉ニュータウン地域では、全国屈指の企業や多くの大型商業施設、病院や大学など、各種の都市機能が集積されております。

一方で水辺、里山等の自然環境や良好な農地に恵まれ、有形無形の文化財や伝統的な風習や文化も数多く残っております。

都市環境と自然環境が調和した魅力あるまち印西です。

白井市　面積：35.48km²　人口：61,225 人

白井市は、都心と成田空港からそれぞれ約30kmに位置し、都市の生活利便性と自然環境が両立しており、災害に対する強さ、充実した子育て環境、交通アクセス性の良さなどの魅力にあふれ、快適で安らぎある暮らしが実現でき、農業・工業・商業などの産業と良好な住宅地のバランスが取れた、未来に向けさらなる発展の可能性を秘めたまちです。

鎌ケ谷市　面積：21.08km²　人口：109,847 人

鎌ケ谷市は、都心から25km圏内にあり、鉄道が4路線、交差していることから、住宅都市として発展しています。また、北海道日本ハムファイターズのファーム（２軍）本拠地があり、イースタン・リーグの公式戦が約70試合開催されています。さらに、駅名にもなっている鎌ケ谷大仏は、高さ18.1mの小さな大仏で多くの人に愛されています。

都市化が進む中、農業も盛んで、緑豊かな農地が多数残っており、梨の産地としてもその名を知られています。

一般国道464号北千葉道路建設促進期成同盟会

外環道と成田国際空港を最短で結び国際競争力の強化、周辺道路の渋滞緩和による物流の効率化、商工業の振興など地域の活性化に寄与する「北千葉道路」の整備促進を図ることを目的に、千葉県、北千葉道路沿線７市（市川市、松戸市、鎌ケ谷市、白井市、船橋市、印西市、成田市）の首長及び、沿線７市の商工団体の代表が構成員となり、令和２年10月に設立しました。

＜問合せ先＞　千葉県県土整備部道路計画課　千葉県千葉市中央区市場町１-１　電話：043-223-3124

令和７年５月発行

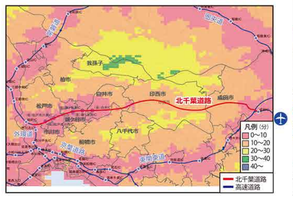
北千葉道路の主な効果

（1）成田国際空港等の拠点への広域高速移動の強化～地域の都市機能の強化～

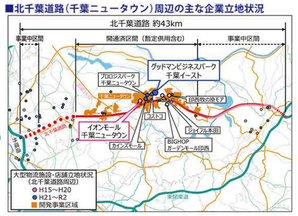
◆北千葉道路周辺は物流施設、商業施設等が多数立地しており、北千葉道路の整備により生産性の向上が期待されます。

◆高速道路のインターチェンジへのアクセス時間に中 30 分以上かかる空白地域が、北千葉道路の整備により減少します。

■インターチェンジまでのアクセス時間（北千葉道路整備後）



■北千葉道路（千葉ニュータウン）周辺の主な企業立地状況



■千葉ニュータウンの大型物流施設・大規模店舗

グッドマンビジネスパーク千葉イースト

イオンモール千葉ニュータウン

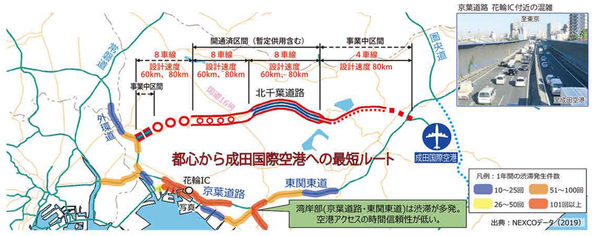
■北千葉道路周辺の工業・物流施設立地状況

対象地域：印西地区、白井市　出典：「工業・物流施設立地動向」（公地企業局事務局）

■北千葉道路周辺の大規模店舗立地状況

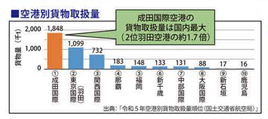
出典：「大規模小売店舗立地法に基づく届出状況」（H14年度）

◆外環道（千葉県区間）整備後、北千葉道路は都心から成田国際空港へのアクセスルートとして最短となり、成田国際空港への時間短縮効果や、湾岸部の渋滞緩和も期待されます。



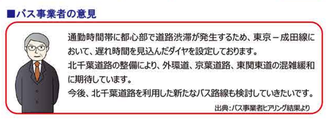
京葉道路　花輪IC付近の混雑

■空港別貨物取扱量



出典：「令和５年空港別貨物取扱量等の公表」（国土交通省航空局）

■バス事業者の意見



通勤時間帯に都心部で道路渋滞が発生するため、東京－成田線において、遅れ時間を見込んだダイヤを設定しております。

北千葉道路の整備により、外環道、京葉道路、東関東道の混雑緩和に期待しています。

今後、北千葉道路を利用した新たなバス路線も検討していきたいです。

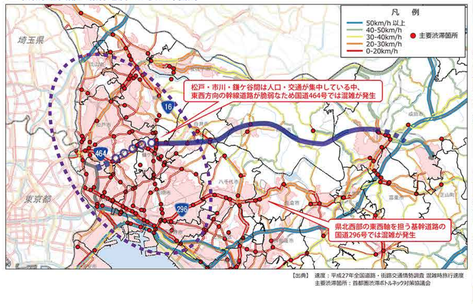
出典：バス事業者ヒアリング結果より

北千葉道路の主な効果

（2）周辺道路の渋滞の緩和

◆市川市から鎌ケ谷市間は東西方向の幹線道路が脆弱なため国道464号や並行する県道等では慢性的に渋滞が発生しています。新しい幹線道路となる北千葉道路が整備されることで、交通が分散され、渋滞の緩和が期待されます。

■千葉県北西部の旅行速度・主要渋滞箇所



［出典］　速度：平成27年全国道路・街路交通情勢調査　路線時旅行速度
主要渋滞箇所：首都圏渋滞ボトルネック対策協議会

（3）災害時の緊急輸送ネットワークの強化

◆緊急輸送道路１次路線となっている国道464号や並行する国道356号、国道296号とも２車線しかなく、いずれも緊急輸送道路として脆弱なため、災害時の緊急輸送ネットワークの強化が必要です。

◆航空搬送拠点に位置付けられている下総航空基地とのアクセスが強化され、首都圏の防災機能の向上が期待されます。

出典：千葉県地震防災地図（H28年度）　想定震度分布図（東京消防庁）

市川・船橋区間の取組や検討状況

（1）北千葉道路の事業化に向けた検討

地域の課題をより早く、効率的に解決していくために、国・県・沿線市等で検討・調整する場を設け、北千葉道路の構造や整備手法について、検討を進めています。

第７回連絡調整会議（平成29年6月2日）、平成29年度第１回千葉県道路協議会（平成29年6月2日）での検討状況

■整備手法について
- 北千葉道路（市川市～国道16号間）の自動車専用道路については、直轄事業と有料事業の合併施行の計画とする。
- 今後、構造や連結位置等を詳細に検討する上で、外環道との連続性を考慮し、東日本高速道路株式会社が協力する。

■都市計画変更等の手続きについて
- 北千葉道路（市川市～国道16号間）の都市計画変更及び環境アセスメント手続きに千葉県が着手できるよう計画の具体化に向けて国が協力する。

第８回連絡調整会議（平成30年11月5日）での主な検討状況

外環（市川市）から国道16号（船橋市）間について、計画の考え方（専用部・一般部の基本構造、横断構成、連結位置・構造等）を検討し、引き続き、国、県及び沿線市が調整を図りつつ速やかに概略計画を策定することを確認。

■外環から鎌ケ谷市間の約9km について（整備イメージ①）
- 専用部（自動車専用道路）は、高架構造を基本とする。
  但し、外環から県道松戸原木線までの間（約2km）と北総線交差部の松戸市松飛台地区（約2km）は地下構造を基本とする。
- 一般部（一般国道）は、走行性や安全性の確保などのため、地表式を基本とする。
  地域の幹線交通を担う路線は交差点により一般部に接続し、生活道路は副道を介して一般部に接続する。
- 横断構成は、中央に専用部、両側に一般部を配置し、一般部の外側に植樹帯、副道、自転車道、歩道等を設置することを基本とする。

■鎌ケ谷市から国道16号間の約6km について（整備イメージ②）
- 専用部（自動車専用道路）は、整備済の一般部の掘割構造内（北総線の両側）に設置する。
- 一般部（一般国道）は、鎌ケ谷消防署前交差点において、整備済みの一般国道464号に接続する。

■連結位置・構造について
- 接続する外環がハーフIC構造であること等を踏まえつつ、最適な道路ネットワークの形成や構造基準、安全性、周辺土地利用状況や料金収入と償還計画等を総合的に勘案して計画する。

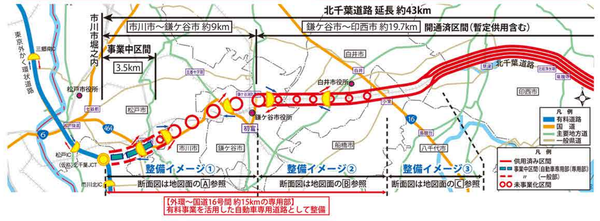
第９回連絡調整会議（令和元年5月23日）、令和元年度第１回千葉県道路協議会（令和元年5月23日）での検討状況

■概略計画について
- 北千葉道路（外環～国道16号）の専用部・一般部の概略計画（専用部・一般部の構造、横断構成、連結位置・構造等）について合意。

■都市計画変更手続きについて
- 概略計画に基づき、都市計画変更に向けた具体的な手続きに、今後千葉県が着手。

■今後の検討課題等
- 都市計画道路３・３・９、３・１・２等の北千葉道路と交差する都市計画道路については、千葉県、沿線市において、北千葉道路に合わせた整備を検討。

■国道464号の直轄編入について（千葉県より要請）
- 国道464号全線について直轄編入を行う旨の要請。
- 先ずは、早期に整備が必要な市川～国道16号間の直轄編入を行う旨の要請。

北千葉道路連絡調整会議
国・県・沿線市※で構成され、北千葉道路の計画策定に向けて検討・協議・調整を実施
※市川市、松戸市、鎌ケ谷市、船橋市、白井市、印西市、成田市

千葉県道路協議会
国・県・千葉市・高速道路会社で構成され県内における道路施策等に関する検討及び幹線道路の計画・調整、道路行政に関する啓発活動を実施